

# 事後評価書

事業名	一般国道365号員弁バイパス	事業区分	道路事業	室名	道路整備室
事業概要	工期 (下段：前回)	S59年～H19年	全体事業費 (下段：前回)	18,210百万円 (負担率：国5.5：県4.5)	
		S59年～H19年		18,111百万円 (負担率：国5.5：県4.5)	
事業目的及び内容	<p>■ 当該事業区間の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国道365号は、石川県加賀市を起点とし、福井県、滋賀県、岐阜県を経て三重県四日市市に至る、延長157kmの幹線道路です。</li> <li>・三重県内においては、三重県北勢地域に位置しており、岐阜県境からいなべ市、東員町を経て四日市市の中心部の国道1号に至る道路です。</li> <li>・三重県北勢地域は、国際拠点港湾の四日市港を有する四日市市と、内陸型工業団地が多数立地する東員町・いなべ市との連携が重要となっています。</li> <li>・このため当該路線は、いなべ市及び東員町と四日市市を最短距離で結ぶ幹線道路として、いなべ市から四日市市間での安全で円滑な自動車交通の確保が必要となっていました。</li> <li>・しかしながら当該事業区間は、幅員狭小（最小2.3m）の未改良区間であり、幹線道路としての機能を果たせていなかったため、いなべ市から四日市市間の自動車交通は、国道421号、国道306号、県道四日市菰野大安線（通称：ミルクロード）等に迂回を強いられる状況でした。</li> <li>・また、北勢地域においては、新たな高規格幹線道路として東海環状自動車道の整備が進められており、当該事業区間には大安IC（仮称）と東員IC（仮称）が設置される予定です。</li> </ul> <p>■ 事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該バイパス事業の実施により、いなべ市から四日市市間での安全で円滑な自動車交通を確保し、北勢地域における幹線道路交通網の強化、交通利便性の向上を図ります。</li> </ul> <p>(1) 未改良区間の整備による安全で円滑な自動車交通の確保  (2) いなべ市・東員町と四日市市とを結ぶ幹線道路の強化  (3) 高規格幹線道路の東海環状自動車道と一体となった広域道路ネットワークの構築</p> <p>■ 事業内容</p> <p>(1) 事業期間 昭和59年度～平成19年度（24年間）  (2) 全体事業費 18,210百万円  (3) 計画延長 L=12.0km（起点）いなべ市大安町片樋～（終点）四日市市小牧町  (4) 幅員W=7.0(13.0)m</p>				
1. 事業の効果					
1-1. 費用対効果分析					
○事業区間全体における費用対効果分析の結果					
<p>走行時間短縮便益 1,701億円  走行経費減少便益 111億円  交通事故減少便益 1億円  総便益：1,813億円（平成24年度現在価値）  総費用：278億円（平成24年度現在価値）  費用便益費：6.5</p>					
○通行車両1台・1km当りの換算コスト：約7円/台・km					
1-2. 費用対効果分析の検証					
○走行時間短縮効果の検証					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・員弁バイパスの全線供用により、所要時間が約9分短縮（実測値）（いなべ市大安町片樋～四日市小牧町）  <ul style="list-style-type: none"> <li>国道365号旧道：約26分（実測値）→員弁バイパス経由：約17分（実測値）</li> </ul> </li> <li>・いなべ市役所北勢庁舎から四日市市役所間の所要時間が短縮  <ul style="list-style-type: none"> <li>国道421号：約54分（実測値）、ミルクロード：約55分（実測値）、員弁バイパス：約48分（実測値）</li> </ul> </li> <li>・所要時間短縮により約3,000台/日の迂回交通が員弁バイパスに転換（H17センサ→H22センサ）  <ul style="list-style-type: none"> <li>ミルクロードからの転換：約2,000台/日、国道421号からの転換：約1,000台/日</li> </ul> </li> </ul>					
○走行経費減少効果の検証					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・並行する国道421号やミルクロードと比較すると、員弁バイパス利用時の走行距離が最短となります。（いなべ市役所北勢庁舎～四日市市役所）  <ul style="list-style-type: none"> <li>国道421号：約28km、ミルクロード：約29km、員弁バイパス：約26km</li> </ul> </li> </ul>					

○交通事故減少効果の検証

- ・国道365号旧道や国道421号、ミルクロードの死傷事故件数が減少傾向。

1-3. その他の効果（救命搬送における時間短縮）

- ・いなべ市と四日市市とを最短時間かつ最短距離で連絡することで、いなべ総合病院と市立四日市病院、県立総合医療センターの連携を強化。

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

■ 自然環境面への配慮

- ・員弁バイパスと併走する東海環状自動車道の環境アセスメントにおいて、自然環境への影響は小さいという結果です。

■ 生活環境の変化

- ・員弁バイパスの全線供用前後ともに、騒音レベルは環境基準は要請限度をそれぞれ下回っています。

3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

■ 企業活動の活性化

- ・平成元年以降、いなべ市に工場・事業所が立地し、雇用（従業員数）も増加しています。
- ・これに伴い、いなべ市、東員町における製造品出荷額等は、県及び全国平均よりも高い割合で推移しています。

4. 県民の意見

■ 地域住民の意見

- ・平成24年6月に行った住民アンケート結果により、員弁バイパスの整備について、下記のような結果となりました。
- ・員弁バイパスの道路整備について、約7割の住民が満足と回答。
  - ① 約70%の方が、員弁バイパスの道路整備について満足と回答。
  - ② 約59%の方が、目的地までの所要時間が短縮したと回答。
  - ③ 約62%の方が、快適に走行できるようになった（運転しやすくなった）と回答。
  - ④ 約22%の方が、交通渋滞のために追越しができないと回答。
  - ⑤ 約14%の方が、渋滞が発生していると回答。

■ 地元企業の意見

- ・平成24年6月に実施した企業ヒアリングにより、員弁バイパスの整備に伴う企業活動の変化が確認されました。
  - ① 員弁バイパスの開通を見越して、国道365号沿線に新たな物流拠点を整備した。
  - ② 四日市方面の物流ルートをミルクロードから員弁バイパスに変更。所要時間が約10分短縮した。
  - ③ 桑名方面の物流ルートの一部を旧道から員弁バイパスに変更。近隣住民に迷惑を掛けなくなった。

5. 再評価の経緯

- ・平成12年度、平成17年度の再評価において、事業の妥当性が認められたことから、事業継続が了承されています。

6. 今後の課題等

■ 地域住民の意見

- ・渋滞緩和に関する課題（主に信号への不満）について、東海環状自動車道の供用後、交通状況を把握しつつ、所管警察署と信号制御等のソフト対策を検討。

■ 地元企業の意見

- ・東海環状自動車道の（仮）東員ICへのアクセス路としての役割を員弁バイパスに期待が高く、東海環状自動車道の進捗に合わせ、今後も地元ニーズに合わせた道路整備を進めてまいります。

# 位置図

## [広域図]



## [員弁バイパス周辺]

